

# 令和4年度 茨城県中学校体育連盟軟式野球専門部 特別規則

## 【競技を行うにあたって】

- 2022年公認野球規則並びに2022年（公財）全日本軟式野球連盟競技者必携、及び本特別規則による。
- 使用するボールは、（公財）全日本軟式野球連盟公認球ナガセケンコー（M号）とする。
- 使用する用具・装具は、（公財）全日本軟式野球連盟公認のものとする。
  - ヘルメットは、チームとしての色やデザインは同一のものを着用する。また、安全性が確保できないと判断されたもの（例：保護パットの不着用、ひび割れ等）は使用できない。
  - 安全上、使用するグラブの紐の長さは親指程度を目安とし、長すぎるものについては結んだり、切ったりして短くするように促す。
  - マスコットバット、バットリング、鉄棒等を球場に持ち込むことを禁止する。
  - リストバンド、ハイカットソックス、エルボーガード及びレッグガードの使用を禁止する。
  - 露出する部分にテーピングを使用する場合には、肌の色に近いものを用いる。投手は投球に影響を与えるものは使用できない。また、試合前（攻守決定の際）に大会本部、審判員にテーピングの使用を申し出て、許可をとること。なお、負傷で手首に包帯などを巻く必要があるときは、大会本部の承認が必要である。
- チーム構成は、選手20名、部長、監督、コーチ（1名）、校長または代理の者各1名の計24名以内とする。監督は当該学校職員もしくは部活動指導員（ユニフォーム着用）に限り、背番号30番をつける。ベンチ入りのコーチは、29番をつける。茨城県中学校体育連盟から認められた外部コーチ（ユニフォーム着用）のベンチ入りを認めるものとする（承認証を必ず持参すること）。背番号は28番をつける。部活動指導員は、監督またはコーチを務めることができる。
- 監督・コーチは、選手と同一のユニフォーム・スパイク（アップシューズでもよい）を着用し、監督は背番号30番、コーチは28番か29番を付けなければならない。なお、外部指導者登録をしているコーチは28番とする。サングラスの使用を禁止する。また、選手は1番から20番までの背番号を付ける。
- 部長は平服（ワイシャツ・ネクタイまたは白いポロシャツおよび選手と同一の野球帽子）または、選手と同一のユニフォーム・スパイク（アップシューズでもよい）とする。また、ノッカーを兼ねる場合には、選手と同一のユニフォーム・スパイク（アップシューズでもよい）を着用し背番号は付けない。ただし、部長が女性の場合は考慮する。サングラスの使用を禁止する。
- 手袋については白または黒一色のものとする。また、スパイクについては、白または黒一色のものとし、チーム内統一とする。
- 施設使用上および安全面から、球場外でのスパイクの使用を一切禁止する。
- サングラスの使用については、天候状態等によりプレイに支障が出る場合、大会本部に申し出る。ただし、ミラーレンズ（反射式）は使用を禁止する。
- 選手の頭髪や身なりは中学生らしく、試合中はもちろんのこと、試合後においてもスポーツマンらしくマナーについては十分に留意する。

## 【試合開始前】

- 部長および監督に引率されたチームは、試合開始予定時刻1時間前または前試合4イニング終了時までに球場に到着し、その旨を大会本部に申し出る。試合開始予定時刻になってもチームが球場に到着せず、それらについて何ら連絡がない場合には棄権と見なす。ただし、交通事情による到着遅延については、大会本部で協議し決定する。
- 天候等の悪化が予測される場合、または態勢が整っているときは、試合開始予定時刻前でも試合を開始することがある。なお、各球場の開門時間は試合開始予定時刻の2時間前とする。練習はベンチ前および外野に限り行うことができるが、スパイクの使用を禁止する。また、バント・トスバッティングのみ認める。練習に参加できるのは登録選手のみとし、補助員は練習に参加できない。登録選手は試合用ユニフォームで行う。
- 第1試合の打順表の交換及び攻守決定は、試合開始予定時刻の40分前とする。第2試合以降は前試合の4回終了時とする。各チームの監督と主将は、所定の打順表を持って、本部担当者と担当審判員とで攻守決定、注意事項の確認を行う（打順表の枚数は大会本部で決定する）。また、外部コーチを登録した場合には、承認証を持参して同席する。
- ブルペンでの投球練習は、攻守決定後、先発バッテリーのみ行うことができる。室内練習場がある場合には、それを待たなくても練習できる。

15. ベンチは抽選番号の若い方を1塁側とする。
16. シートノックは、後攻側より始め、通告時より7分以内とする。ただし、状況によっては短縮または省略することもある。ダブルゲームの場合はシートノックを行わない（球場が変わる場合はこの限りではない）。また、シートノックの際、登録選手以外に5名の補助員をつけることができる。ノッカーは選手と同一のユニフォーム・スパイクを着用する。捕手はプロテクター、レガース、ヘルメット、ファウルカップを着用する。マウンド及び周辺は使用しない。危険防止対策として、ノッカーへボールを渡す選手および捕手はヘルメットを着用する。
17. 第2試合以降のチームは、試合開始予定時刻に関係なく前の試合が終了次第シートノックを行うので、試合終了のあいさつ後にグラウンドに入り、外野側のベンチ横に用具を置きキャッチボール等を行う。トスバッティング、ノックを行ってもよい。なお、シートノックが開始された際には、ベンチ内で待機する。
18. ダブルヘッダーの場合、ゲーム終了後から次の試合開始まで、40分程度の時間を空ける。開始時刻20分前に攻守決定を行う。開始時刻の決定は大会本部が行い連絡する。
19. 雨天時の場合でも試合を行うときがある。また、午前中見合わせて午後から行うこともあるので、大会本部からの連絡に注意する。なお、当日の試合が不可能な場合には、大会本部から連絡をする。天候による大会の実施の可否、試合の中断及び日程の変更は、大会本部で決定し、連絡する。

### 【試合中】

20. 正式試合は、通常7イニングから成る。なお、試合は5イニングで成立する。
21. 得点差によるコールドゲームを適用する。5回以降7点差以上の得点差があった場合とする。
22. 試合時間による打ち切りは行わず、7回を完了し同点の場合はタイブレーク方式によって、勝敗を決する。
23. 攻守交代は全力疾走で行い、先頭打者とランナーコーチは、ミーティングに参加せず、直ちに所定の位置につくこと。
24. 試合中の球場内では、次打者以外は素振りなどをしてはいけない。その際、投手の投球が始まったら、次打者席で投球や打球から目を離さず、すぐに動くことができる姿勢で待つこと。
25. 投手の準備投球は、初回と投手交代の時は7球以内とするが、その他は3球以内とする（審判が状況を考慮する）。
26. メガホンの使用は、監督のみとする。
27. ブルペンでの投球練習、交代の野手のキャッチボール（2組4名以内）の必要以外の選手はベンチから出ない。ただし、ベンチの入れ替わりの間、シートノックの準備ができるまでの間、試合途中のグラウンド整備の間はベンチ前でのキャッチボールや素振り、準備運動を認める。
28. 規則適用上の疑義を申し出でる場合、要旨を端的に述べ、試合進行や大会運営に支障をきたさぬよう留意する。
29. 投手の投球数制限を厳格に適用する。なお、全日本軟式野球連盟が定める「1週間」を「大会期間中」と読み替える。
30. 塁上の走者、およびコーチスボックスやベンチから、打者にコースや球種などを伝える行為を禁止する。
31. 自軍ベンチ側のファウルボールは、ベンチ内の選手が速やかに拾いに行き補助員に渡す。
32. 応援団は次の禁止事項を守る。なお、これについては各チームの部長・監督が責任をもって指導すること。
  - ①紙吹雪・テープ・個人名を書いたのぼり等を禁止する。
  - ②相手チームをやじったり、相手チームに不利を招いたりするような応援をしない。
  - ③応援席周辺をきれいにする。ごみは持ち帰る。
  - ④球場の設備を傷つけたり、ゲームを妨害したりするような応援はしない。
  - ⑤選手に対しコーチング(技術的な指導など)をしない。
  - ⑥スタンドや客席にテントやパラソルを張ることを禁止する。

### 【試合後】

33. 試合終了後の挨拶は、それぞれの塁線上に整列してすべて完了することとし、次の試合のために速やかにベンチを空けること。
34. 各チームの部長または監督は、球場を去る前（試合終了30分以内）に大会本部に連絡をし、次の試合の日程などを確認する。